

なごや
にんちしょう
NEWS

H26.10月号



発行：名古屋認知症相談支援センター
n-renkei@samba.ocn.ne.jp
☎052-763-1552

名古屋市 認知症コールセンター ☎052-763-1332

受付時間 月・水・木・金：10～16時
(年末年始・祝日除く) 火：14～20時

名古屋市認知症コールセンター実績報告

1日あたりの平均相談件数	H26年6・7月	平成26年8・9月	昨年同月(8・9月)
	5.0件	5.7件	

地域での実践より… “ご本人の思い” を中心におくケア ～中川区～

認知症の「パーソンセンタードケア(以下PCC)」をご存知でしょうか？
 (「その人を中心としたケア」と訳されます)

私の不安や苦痛、悲しみは…
 私が嬉しいこと、楽しいこと、快と感じることは…

「センター方式C-1-2表：心身の情報 私の姿と気持ちシート」より

「ケア」の目的というと、「できないことを補う」イメージが強いかも知れません。しかし、この「ケア(PCC)」は「快」「安心」「馴染み」…その人がどう感じているか理解し、支えることが目的の中心にあります。

一貫してPCC(センター方式)を研修で取り上げる中川区

中川区では23年度から一貫してPCCの考え方に基づくツール「センター方式」を研修で取り上げています。

9月に行われた研修では、「夫と〇〇へ行きたい」という、本人の意欲を引き出すエピソードを「センター方式」を活用したアセスメントで掘み取り、それを実現させた事例がとりあげられました。

何十年間連れ添ってきた夫婦にとって想い出深い場所、無理だろうと諦めていたあの場所へ夫と一緒にに行ける！



認知症のひとは「生理的欲求」「安全欲求」が脅かされている場合も少なくなく、そこが満たされないと「希望」「意欲」につながっていかない。(逆に「希望」がひとつあると、「不安感」「孤立感」が解消されることもある)という視点がマズローの図も活用しながら、説明されました。参考：右図(筆者作成)

肩の力がふっと抜け、視野が広がるような「考え方の転換」を図ることで、真の解決につなげていきましょう…

「大府センター式コミュニケーションパック」より

肩の力がふっと抜ける…簡単なようで簡単ではないことかもしれません。

しかし、支援経験を重ねてきた専門職が、チーム皆で、共通のツールも活用しながら、本人や家族の「思い」を理解しながら、関わっていくことで、それもクリアしやすくなるかもしれません。

研修をサポートする認知症介護指導者の皆さんは、日々の積み重ねから得られた実感として、その素晴らしさ※を異音同音に話していただきます。

※センター方式は多くのシートで構成されていますが、全てのシートを埋めようとするのではなく、1枚でも活用しながら、「一つの成功体験」がもてると、活用してみようという意識になってくるようです。

「認知症になっても安心」な地域へ

本人の「生活のしづらさ」とともに、「希望」や「意欲」も周囲にわかりにくい、認知症という病。誤解や先入観などから周囲も混乱に陥りがちです。中川区では、専門職だけでなく、民生委員等の地域住民も参加する研修でも「センター方式」を活用してきました。「認知症800万人時代」ともいわれる今、ご近所さんが、友人が、家族が、そして自分が…だれもが認知症はひとごとではすまない課題です。「希望」「意欲」をも含めたそのひとの「思い」を見出していく取り組みを、地域で地道に続けていくことで「認知症になっても安心」な地域に近づくのだらうと思いました。

【マズローの欲求5段階説】

欲求は5段階のピラミッドのように構成され、それぞれ低次の欲求が満たされると、より高次の欲求を欲するというもの。



私のやりたいことや願い・要望は…

本人> 何もない。

家族> 前はよく婦人会の集まりを欠かしたことがないやつでした。

本人> (婦人会の話を聞いたら生き活きて) 気安いいばっかりで、しょっちゅうなんやかんやと。

ヘルパー> 仲間になりたい様子。新年会に行けたらよろこばれるのでは。

